

△産業宣教 絶対契約を選択したエッサイ (I サム 17:18)	△レムナント伝道学 契約を成し遂げたダビデ (詩 23:6)	△核心/Remnant Day 9 月学院福音化	△散らされた弟子たち 神様の預言と成就 (イザ 40:6-10)
□序論_300%-絶対契約(専門性、現場性、未来性) 専門性、現場性、未来性 300%準備することが絶対契約だ。エジプトと戦って、ダビデがベリシテと戦うとき、バビロンにも絶対契約を握って行った。伝道、やぐら、学業もそのようにすべき 1. CVDIP 正確な契約の中で、わざわざ地帯を見たビジョン、24・25・永遠というドリーム、神様の創造の方法でするイメージ、確実な御座から与えられる作品。それゆえ祈ること 2. プラットフォーム(編集)、見張り台(設計)、アンテナ(デザイン) - (やぐら) 人が来るしかないプラットフォーム、人々が光を見て来ることが出来る見張り人、霊的に神様と疎通できるアンテナを立てたのがやぐらだ。特にレムナントは編集するのに、おもに本をたくさん読むべき。すると、神様の計画が見えて、みことばで答えが出てくる設計、現場に合うように適用させるデザインができる。いのちをかける価値を見つけ出す 3. 定刻時間を作って味わうサミットタイムを持てば、24・25・永遠の答えが来る。 □本論_エッサイ(三つのことを見つける) 1. 過去 1) 創 37:1-11 ヨセフが絶対契約を言い、ヤコブがそれを心にとどめていた。神様の世界福音化で絶対契約を握ったら成就 2) 出 3:1-18 福音、宣教、文化三つを逃して奴隷になった 3) 士 21:25 神様の絶対契約でない、自分の目に良いと見えること 2. 今日 1) I サム 16:1-13 大祭司がダビデに王になることを言って油を注いだ 2) I サム 16:23 王宮で賛美したが、サウル王にいた悪霊が追い出された 3) I サム 17:1-47 小さいお使いのように見えるが絶対契約が入っていた △イスラエルが無能、偶像文化、悪霊文化に捕えられていた。今、宗教と 3 団体がこの三つで完全に掌握 3. 未来 1) ダビデがイスラエル王の名、主の御名でゴリヤテに立ち向かった。 2) I サム 17:18 エッサイがお使いに送った 3) I サム 17:29 理由があると話したダビデ。絶対契約を握った △王になる人なのに、危険地帯に送った。そこに理由がある □結論_準備 1. ダビデのように 1 千のやぐらを建てて、完全な神殿準備 2. 生涯準備ダビデの生涯の祈りだったために働きが起るしかない 3. 金土日時代理由-神殿で逃した三つの庭を回復しなければならないため	詩 23:6 はダビデの告白だ。 □本論 1. 必ず参考にすべきダビデの生涯 1) 詩 78:70-72 サミットタイムを持って羊を飼っていたダビデを、神様が国を育てる者として準備させられた。サミットになる前に霊的サミットからなるべき。 2) I サム 17:1-47 青少年時期あらかじめ準備していたダビデがゴリヤテに会った。レムナントの時期は答えを受ける時ではなく準備する時だ。 3) 詩 23:1-6 青年の時期に、想像できない苦しみが始めたがダビデには最も重要な時刻表だった 4) I 歴 29:10 王の時期には生涯の祈りが入った神殿を準備した。神様が最も重要な共同体として教会を与えられた。これを分かれば教会で何をしなければならぬのか答えが出てくる 5) II サム 16:7-14 老年の時期アブサロムの反逆を通してダビデは味方と敵を確認して整理した。 2. 業績(やぐら)三つ 1) ペリシテに勝って 2) 雅 4:1-5 1 千のやぐらを建てて 3) I 歴 29:10-14 神殿準備をした。 △こういうものが、すべてやぐらだ。レムナントはやぐらを残さない。 3. ダビデが味わった永遠のこと 1) 霊力と知力 2) 「主の家にいつまでも住まいます」 3) 詩 103:20-22 (神様のみこころを成し遂げる軍勢、神様のみことばを成し遂げる御使い)、神様の臨在 □結論_あらかじめ絵を先に引っ張りなさい。 1. みことば 2. 祈り 3. 実際 △みことばと祈りを実際に先に引っ張りなさい。勉強もみことばと祈りの力を持てなさい。 △考えと心に入れば必ず脳に、根をおろせばたましいの中に、体質になれば御座に刻印される。	□序論_祈りの中ですること 1. 刻印 1) Trinity 三位一体の神様が私たちとともにおられるということ を祈りで味わうことができるべき(マタ 28 章、創 1:27、ピリ 2:6、ヨハ 10:30) 2) Throne 御座の祝福が刻印されるように祈りで味わうべき 3) 3 Ages 3 時代の契約を握りなさい。天と地の権威が与えられている。 4) Universe 時代が来る。それゆえ、金土日時代を開いて本格的に味わうべき 5) 5 Authorities 上から与えられる 5 つの力 6) 契約の旅程である CVDIP をあらかじめ作るべき 7) 3 Courtyards イエスが最も願われる三つの庭でこそ世界福音化することができる。 2. 根 刻印されてこそ根を下ろす。根をおろしてこそやぐらとなる。 1) プラットフォームがあれば全世界が来る。 2) 見張り台に来ていのちを得る。 3) アンテナ この祝福をその通りに疎通 3. 体質になったとき、やぐらを守る見張り人になる 1) 家庭、家系に派遣された者として、レムナントとして行きなさい。ここで人生編集、設計、デザインするすべての答えが出てくる。私たちの家庭、家系を無視することはできない。そこで確実なことが出てくる。 2) 学校にやぐらを作りなさい 3) 現場に未来を持って行きなさい □本論_ピリピンへの手紙-「苦しみ」 1 課 苦しみを受ける信徒の確信(ピリ 1:9-10) △苦しみ、危機のように見えるが、そうではない。「最初の日から今日まで福音を伝えることに携わて来たこと、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています」(ピリ 1:5-6) △私たちができごとに会ったとき、苦しみを受けるとき、大切なことを見分けなさい。 2 課 苦しみを受ける者の姿勢(ピリ 2:1-6) 1) 苦しみ-キリスト 2) その方は神様の御姿。人として来られて苦しみ 3) 苦しみにあったキリストは王の王、主の主として立たれた 3 課 苦しみに会う伝道弟子の背景(ピリ 3:1-21) 1) 上から与えられる報い 2) 天国国籍 3) 万物を従わせる御名、これが祈りの鍵 △キリスト。これが背景だ。それゆえ、キリストの手で捕えられた、それを得るために行くと言った。 4 課 苦しみに会う伝道弟子の現住所(ピリ 4:13) △「中で」(in, En) - 「私を強くしてくださる方によって」が私たちの現住所で神の国だ(使 27:24-25) □結論 1. 問題-答え 2. 葛藤-更新 3. 危機-機会	□本論 1. 預言の中の預言、世界福音化 1) 創 12:3 「あなたによって、地のすべての部族が救いを得ること」、22:18 「地のすべての国々があなたの子孫によって生かされる」 2) マタ 28:16- 「あらゆる国の人々に」、マコ 16:15-20 「すべての造られた者」、使 1:8 「地の果て」 3) エペ 3:14-21 「天と地にあるすべての家族に与えられた名だ」と みことば・祈りで世界を見通すために十分に可能だ。 2. 神様がどのように成就させられたのか 1) 奴隷 2) 捕虜 3) 属国 4) 流浪の民 5) 戦争 皆さんがどれだけ重要な人かという、皆さんの次世代をこのように送らずに、とても重要な契約を握った人々だ。 時代にとっても遅れると強大国に送り出すこと。そこは文化と、237)がある。 3. 散らされた弟子 解放された者として呼ばれた-解放させる弟子であるためだ。 1) 残りの者として見えるが-残す者 2) 散らされた者として見えるが-巡礼者(見張り人) 3) 旅人(寄留者)として見えるが-征服者 □結論_100%専門性、現場性、未来性がある「伝道やぐら」(300%)を作りなさい。

△区域メッセージ (第 35 週) サミットと 25 の答え (ピリ 1:9-10)	△聖日 1 部礼拝 神様の恵みが必要な人 (エペ 2:8-22)	△聖日 2 部礼拝/237 宣教委員会献身礼拝 すべての家族に与えられた御名 (エペ 3:14-21)
実際に精神的に苦しめられている教会の信徒と人がとても多い。精神的な苦しみを治そうとすれば、事実上不可能だということを分かってこそ治すことができる。刻印されたことを変えれば良いのに、変える時間がない。ずっと違うことを心配、悩むためだ。 □序論_霊的サミット サミットは最高の場が上がったということだ。ところで、霊的サミットが先にならなければサミットになった後に難しい。少しだけ正しく祈ればこの答えが来る。礼拝するとき、本当に礼拝だけささげれば霊的サミットになる。 環境-現場 そうしてこそ環境を生かして、現場を生かす。 □本論 1. 私の刻印、根、体質を変えるのは霊的サミットしかない。 1) 霊的サミットになる刻印は礼拝で変えるのだ。それゆえ、続けて幕屋、会見の天幕、天幕が聖書に出てくる。 2) 礼拝で恵みを受けるだけ、個人集中することができる。このとき根をおろすのだ。 3) 現場で常時祈りをするようになれば、完全に体質になるのだ。 2. 三つの祝福 1) 祈っただけ福音が単なる福音ではなくて福音化になるのだ。キリストの力が臨み始める。 2) 福音を味わっていれば、御座が私のことになる御座化の祝福がくる。 3) じっとしているのにサミットの祝福がくる。これがサミット化だ。 △モーセの祈りのように、モーセが死んだ後にその答えが次世代に現れると告白した。 3. サミット運動 1) それゆえ、私たちは霊的サミットの座にすることが重要だ。 2) 私たちは神様の答えを受けなければならない人なので霊的サミットの時刻表の中にいるのだ。 3) 答えを受けるのであるから霊的サミットの姿勢を備えるのだ。 △いくら良い人でも、神様のことでなく、違うもので刻印されているが、それを変えることが最高の働きだ。 □結論 1. サミット運動をすれば出てくる結論は目に見えないように三位一体の神様の働きが私たちのたましいの中に起こる。 2. 御座の力でなければ癒やすことはできない。 3. 私たちは力がないのに時代を変える答えが来る。	※礼拝しなければならない絶対理由を見つけなさい。 ※青年はみことば、三つの庭、未来重職者準備の証人になるべき □序論_霊的に、精神的に苦められている人 1. 絶対に治らないことを知って、間違って刻印されていることを変えてあげなさい。 2. 根本問題 1) 問題の始まり-創 3・6・11 章 (1) アダム、エバの中に神様を信じるなど植えたエデンの園事件 (創 3 章) (2) ネフィリム時代になったノア洪水時代 (創 6 章) (3) 人の力と世論ならばできるというバベルの塔運動 (創 11 章) 2) 今でも続いている創 3・6・11 章の問題-偶像、宗教、3 団体が瞑想運動、文化掌握 3) エペ 6:12 サタンとの戦い-支配、力、暗闇の世界の支配者、天にいる悪霊 3. 解決される唯一の道 1) その恵みによって信仰によって救われたので (8 節) (1) 救いの原因-恵みによって (私たちの力で絶対することができないから) (2) 救いの手段と方法-信仰 (神様のプレゼント) 2) キリストの外にいた異邦人であったのに、キリストの血によって和解 (11-18 節) 3) 聖霊によって神の御住まい (22 節) □本論_エペソ人への手紙の特徴 1. 教会で絶対祝福を見つけ出しなさい 1) 三位一体の神様の力でともに 2) 御座の力であなたとともに 3) 地の果てまであなたを証人として ※信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです (ヘブ 11:1-3) ※恵みによって信仰によって救われる (8 節)-このときにだけ、サタンの刻印が崩れる。その時刻表を味わって伝えなければならない。この祝福を皆さんの家庭にやぐらとして建ててしまいなさい。 2. 異邦人のための絶対やぐらを作って刻印されたことを変えなさい。 1) 多民族のやぐらを変えなさい。 (1) 異邦人、キリストの外にある希望がない者 (11-12 節) (2) キリストが隔ての壁を打ち壊してあなたがたを救い (14 節) (3) 神様が臨む御住まいに (22 節) 2) 私の 237、三つの庭、私の地の果てを握りなさい。 3) 1 人が一つの国の祝福 3. 「御霊によって神の御住まいとなる、キリストの中とともに築き上げられ」-みなさんを絶対見張り人として呼ばれた。 1) 私の中に 2) 家庭に 3) 職業にキリストのやぐらを建てなさい。 □結論_祈りと信仰でこの奥義を味わうことができる。 1. 脳が私のからだ全体と考え、すべてを動かす。(祈りが重要) 2. たましいの中に神様の力が臨めば、私の生活が変化 3. 御座の力が臨めば世界福音化 ※ただキリストで刻印させなさい。	237 宣教は準備された人に与えられる。初代教会は弱いが準備ができていた。神様は彼らに世界を生かす答えを与えられた。 三位一体の神様-父と子と聖霊の御名でバプテスマを受けなさい。これを悟ってこそ、私の福音、祈り、伝道、職業がみな生かされる。これを祈りで味わうことができなければならない。 御座の力でこそ、237、世界を生かすことができる。40 日神の国のことを説明した。 3 時代を生かしなさい-すべての国の人々、すべての造られた者、地の果て 宇宙を治める力-天と地のすべての権威であなたとともにいる。 地の果てまで行くように力を与える。イエス様が地の果てという未来を語られた。ここには 3 つの庭が入っている。 これを礼拝のときに味わって、定刻祈りの時間だけ持ってもかまわない。これが刻印されれば 24 になる。他の人が見て悟る 25 の答えが来る。次世代に伝えられるほど、永遠なこととして残るようになる。この御名がすべての家族に与えられた御名だ。 □序論_14 節「膝」- 237 を置いてひざまずいて神様に祈ったパウロ 1. エペ 2:1 (原罪、自犯罪で死んだ私たちを生かされたのだ) 2. エペ 2:2 (以前に私たちが空中の権威を持つ支配者に付いて回った) 3. エペ 6:12 (支配、力、悪霊、暗闇の支配者に臨んで世界化) 4. 時空超越 (次世代に働き) 5. 霊的問題が世界化されている暗闇との戦いが私たちの戦い 6. 何年か後にイスラエルが滅亡して、福音を持っている次世代が全世界に散らされること 7. ローマのわざわいが世界のわざわいに変わる事が起こる。 □本論_出てくる答え 1. 世界経綸 (1-2 節)-世界を動かす神様の意図 1) 強大国を動かした経綸 2) 奴隷、捕虜、属国に行ったこと 3) 流浪の民に行くようになること 2. わざわいを止めるキリストの奥義 (9 節) 1) 使 9:1-10 道を通り過ぎてキリストに会ったパウロ 2) 使 9:15 イスラエルと異邦人と王の前に立てるための選びの器 3) 使 19:1-20 監獄でティラノ運動が起きたエペソ教会に送った手紙 使 19:21 監獄に行った理由-ローマ、世界のわざわいを防ぐ道 △ただキリストその御名によって暗闇を防ぐことができる。 3. 真の回復 (6-9 節) 1) 相続人 2) 器官 3) 約束にあずかる者 (6 節) 4) キリストの豊かさがあなたがたにあるように祈り (8 節) 5) 永遠の奥義 (9 節) □結論_確認 1. 内なる人-力をもって強めてくださるように (16 節) 2. キリスト-根がおろされて、基礎が固まって (17 節) 3. キリストによってあふれる知識-パウロ (18 節、ピリ 3:7-21 すべてをちりあくと考える)